

## 令和4年度伊豆の国市環境審議会（第1回）に関する委員意見のとりまとめ

### 1. 開催日時・場所

日時：令和4年10月26日（水） 13：30～15：30

場所：伊豆の国市大仁庁舎2階 第1・第2会議室

### 2. 委員意見一覧「第2次伊豆の国市環境基本計画について」

#### ①市民・事業者アンケート結果

	委員発言	対応方針	
1	回答者の年齢70歳以上が多く、10年間の計画なので、若い層を中心に回答してもらえるとより良かった。	伊豆の国市の人口の年齢層をふまえて、無作為抽出でアンケート対象者を抽出している。若い人に絞って、アンケートを追加実施することは考えていない。	
2	若い人の回答率が低いため、20代から30代に絞って追加のアンケートを取ることは、どう考えるか。		
3	年齢の差はあるかもしれないが、全体的にどう進めるかを考えていく必要がある。		
4	計画策定にあたって、アンケート調査での無作為抽出は、統計的手法として用いられるものである。年代を絞ってしまうことは、あくまで参考意見となる。		
5	自由記載については、年代も表記してもらえると、若い人の意見を見ることができないのではないか。		表記を検討する。
6	市民に環境問題に関心してもらいたいと思うが、回答率36.4%についてはどう考えるか。		前回の環境基本計画アンケートの回答率も同じくらいである。アンケート調査の数値をふまえて、市民に関心を持ってもらえるような施策を進められるよう、今後も取り組みたい。
7	アンケート回答率30%以上であれば、第一段階の評価になるのではないかと。		
8	行政に期待する環境施策で、50%以上の回答率のものを有効に活用してもらいたい。		
9	アンケートのデータはすばらしいデータであるが、市民が協力してもらえるような政策を行うことが大切である。		

#### ②第1章 計画の基本的事項

	委員発言	対応方針
1	計画（案）5ページの第1次計画の数値目標の達成状況については、×の理由を記載するとよい。基本方針5の環境教育の展開については、コロナにより参加ができなかったことはわかる。伊豆の国市は一人あたりのごみ排出量が多いが、ごみの排出量が×だった理由がわかるとよい。×の中にもレベルがあるので、×でない表し方を検討するとよい。	第2次伊豆の国市環境基本計画（案）5ページの「第1次計画の数値目標の達成状況」については、次回の会議までに確認し、評価項目に関する検討を追加する。なお、基準値は、第1次環境基本計画を策定した時の数値、最終目標値は、第1次環境基本計画の中間見直しを実施した時の数値となっている。
2	計画（案）5ページの数値目標については、基本方針4の温室効果ガスの排出量の最終目標が、基準値を増えているが、理由が理解できない。	

	委員発言	対応方針
3	計画（案）5 ページの数値目標の達成状況については、第1次計画の評価なので、第2次計画とは表現が違うということをはっきりと注釈すればよい。	
4	計画（案）5 ページの数値目標で「市の事務事業からの温室効果ガス排出量」とあるが、第2次計画の目標では、市全体の数値となるか。市役所の事務事業からの温室効果ガス排出量は、小さな事業所の排出量になるので、市域で見たほうがよいと思う。	市全体の排出量など、指標としてどのようなものがふさわしいか検討する。
5	計画（案）5 ページの「エコアクション 21」の認証取得は、静岡県は全国でも高い位置である。×だと目標が高かったのか、達成が難しかったのか、誤解を招くのではないかと。県下でも伊豆の国市は高いが伸び悩んでいるので、次期計画では目標値を考えて欲しい。エコアクション 21、ISO14001 とか限定するような記載にせず、環境マネジメントシステムに言葉を変えたと全体的に件数が増えるような気がする。	数値目標については、第2次計画で見直す。
6	達成状況のマークで順調に推移とは、基準年からグラフを書いているのか、なんとなく感覚で記載しているのか。	達成状況のマークで、最終的な目標に対して、達成しそうかを表現している。

### ③第2章 環境の現状

	委員発言	対応方針
1	計画（案）13 ページ⑤、環境マネジメントシステムについては、エコアクション 21 だけでなく、ISO14001 も含めて記載するとよい。	伊豆の国市役所では、エコアクション 21 を取得しているため、エコアクション 21 と表記させて頂く。
2	計画（案）13 ページ⑤、右側のグラフ「20」は、文字切れか。	表記について検討する。
3	計画（案）14 ページ、再生可能エネルギーの導入ポテンシャルは、太陽光しか実績がなかった。風力のポテンシャルもあるが、なぜ風力の実績がないのか。	風力発電の設備が、大規模になる場合が多いので、現状では、導入に結びついていないことが考えられる。
4	再生可能エネルギーのポテンシャルがあるが、伊豆の国の企業と連携する仕組みができないと大型プロジェクトは進まない。山を削ってつくることの抵抗もある。	風力については、景観の問題もある。伊豆の国市では、現在、小水力発電の可能性調査を行っており、事業者が手を付けやすい場所はないか検討中である。
5	景観問題もあるため、伊豆の国市に風力発電が合うかどうかは、検討する必要がある。水力発電も考えられる。	太陽光については、メガソーラーは考えておらず、公共施設や一般家庭の普及などを考えている。
6	地熱についてはポテンシャルがあるのであれば、活用するとよい。	再生可能エネル

	委員発言	対応方針
7	太陽光パネルは 20 年しかもたない、あと数年たったら買い取りもなくなるが、そうなったらどうするのか。再生可能エネルギーの最先端の技術を考えていかななくてはならない。太陽光発電をもっと積極的に利用する必要がある。	ギーについては、地域の実情にあった中で、進めていくことを考えている。
8	太陽光発電については、PPA 事業などにより、屋根に乘せるだけでなく、壁面、ロールカーテン型などもある。	
9	これからは壁面（ガラス）の太陽光発電も導入が期待される。ただ、壁面の太陽光発電だと住民から苦情が発生するのではないのか。	
10	パネル設置によるトラブルは伊豆の国市で発生しているか。	トラブルは発生していない。
11	メガソーラーの設置は市として、抑制区域内では同意しないということか。規制がかかると、市全体として再生可能エネルギーの導入が進みにくいということにならないか。	工場の屋根でやることと、林地開発のような新たな開発では、見解が異なる。
12	計画（案）14 ページ、再生可能エネルギーは導入ポテンシャルが高いのに、実績がないというのは誤解を生むのではないか。	環境省の自治体再エネ情報カルテの伊豆の国市の値である。熱を除いて、電力だけの表示にすることも考えられる。伊豆の国市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を検討する際に、再生可能エネルギーの目標を考える。
13	計画（案）21 ページ、埋め立て処理については、焼却灰について、路盤材やコンクリート資材への再利用があると思う。	将来に向けて焼却灰をどうするかは検討中である。
14	計画（案）21 ページ、焼却灰の再委託先の処理方法は何か。	一部、路盤材、熱利用している。
15	計画案 7 ページ、「満足度を高めていくための取り組みが必要」とあるので、環境問題の意識高揚を高めていけるように、施策の推進をお願いしたい。	市民に関心を持ってもらえるような施策を進められるよう、今後も取り組みたい。
16	計画（案）28 ページ、騒音振動については、自動車騒音について触れられているが、環境クレームのような騒音・振動についての情報はないか。	計画（案）30 ページに公害苦情の騒音について記載している。
17	再生可能エネルギーのエネルギー収支についてはどう考えるか。例えば、以前は太陽光パネルを生産時に多くのエネルギーを使用と言われていた。	国等のライフサイクル CO <sub>2</sub> 排出量のデータを参考に検討する。

④その他（計画全般に関する意見）

	委員発言	対応方針
--	------	------

	委員発言	対応方針
1	子供たちが環境問題を広く学習する機会が必要である。伊豆の国市、静岡県、日本、世界の環境問題を学んだ上で、伊豆の国市の未来をどう考えるかということが大切である。	環境基本計画に記載する取り組みとして、子供向けの環境学習についても検討する。
2	環境の範囲（ごみ、カーボン、騒音、大気、自然など）が広すぎるので、個人個人が具体的にイメージできるように、少しインパクトのある言葉で議論するとよい。伊豆の国市の目玉は何なのか、伊豆の国市としての特徴を出すように。	環境基本計画で、伊豆の国市としての特徴を出せるような取り組みを検討する。
3	インフレとか高物価などの問題を絡めると、個人個人の住宅でいかに経費を節減するかがテーマとなるが、これをやれば、楽になるというような行動計画を作成すれば、市民が積極的に参加するのではないかと思う。	環境基本計画に基づき、市民の行動を促す施策を実行できるように努める。
4	環境基本計画の下に地球温暖化対策実行計画、適応計画が位置付けられて、はじめて市民ができるような実行につながる。	環境基本計画の中で、市民の主な取り組みについても示す。
5	環境問題は、伊豆の国市だけで完結できるものではないので、近隣の市町といかに連携するのかの視点が少ないような気がしている。狩野川流域として考えた場合、周りの市町とどのように連携するかを考えるとよい。	環境基本計画は、市域の計画となるが、施策を推進していく中で、周辺市町との連携についても検討していく。
6	コンテンツとして、計画の第1章、第2章を今回の会議で検討したということによいか。これで終わりということはあるか。	今後、第3章以降の内容を作成していく。